

六一

受信一四五〇

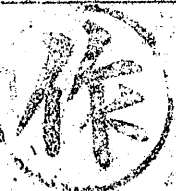
丁一五二〇

電〇〇三五〇

作

三二機

十八機



南西方艦隊・東北部隊各下・四南艦隊下・二八機

機密第〇一〇七五〇番電

表 二八根参謀長

一八機艦隊機密第〇一〇六三〇番電

小官ハ大部隊ノ「マノクワリ」「ピアタ」開舟艦機動ハ現狀ニ於テ
ハ長時間ヲ要シ機ヲ失スル虞レアリト患考ス。

海軍

海軍 第三八

海軍

未読

第十信課

397

局長

課長

局長

福

石川

石川

赤松

赤松

赤松

第十信課

六

一 陸軍 一九三〇

一九五二

〇〇四三五

作

候

十八

聯合艦隊司令部 海軍省 十六

機

機 機 〇一六三三番機

發 南西方面艦隊隊長

宛 二十八級海軍少將

二八級海軍少將 〇一〇七五〇番機

海上機動第二隊ノ主力一六五ヲ以テ直接トピアクニ揚陸ノコト

ニ決セラレアリ揚陸用舟艇成ルベク多數ヲ海軍隊指揮官一陸十六

隊司令官ノ指定スル時刻揚陸ニ發進出ノコトニ取計ハク度。

五九七 呂二八一九五五〇七二一

海軍

398



人事

六 陸軍少将
陸軍少将
陸軍少将
陸軍少将
陸軍少将

海上...
大津...
...
...

陸 軍 少 将

北 海 道 支 隊 長
...
...



第十師團

海 軍
第九一六 海軍少将

海軍

399

133

六二受 始 一三四五 丁 一七三〇 〇〇八七二 作・本

第十六戰隊 A

第十八戰隊

工勇

未派

通電 東京 通信 〇二〇一五五番電 二分ノ二

殺 二十八根參戰機

本日「ヌンホル」為ニ敵上陸ノ疑ト一陸軍飛行偵察アリタル爲今夕
勢ハ同舟艇隊ノ「ヌンホル」發進中止トナリ電令セルガ舟艇隊トノ速
精不充分ノ爲「ヌンホル」ヲ發進セルヤ不明ナリ

前派部隊掃掃用トシテ準備シアリタル機銃ノ七隻ハ當地陸軍トシテ「
ヌンホル」敵上陸部隊ニ對スル作戦用トシテ使用セントシツツアリ
之ガ爲「ヌンホル」島敵情判明迄ハ貴重掃掃用トシテ「ピアケ」ニ敵
達シ得ル母艦ハ直轄ナガラ皆無トナリタリ

通一一一

呂二A 一一九五五〇〇一廿一通

海軍

第十信課

420

人事

六二 受領一七六〇〇 即丁一人〇〇 雇〇〇八七三

作
第十信保



● 大 皇・第五通商口・一六番隊△(三三振△)・東職九航空
● 聯合 隊
● 後衛 〇二一一一五番

第一機動隊隊員長
「ピアクル」方面艦況打開ノ爲敵機動部隊同島密リニ遁出スルノ算大
ナリト観ノタルルニ付渾作戦ニ關聯「イ」點附近ニ於テ決戦生起
ノ要アリト観ムル如ク準備ヲ完了シ機クノ要アリト観ム

海軍 通一二八八 四八一一九五五〇〇〇(一一通海 軍

人軍

電符部
第十部

大 三 陸 軍 部 三 〇 一 三 〇 陸 軍 部 三 〇 一 五 〇 〇 陸 軍 部 三 〇 一 三 〇

● 第十八海軍艦隊

● 十六海軍艦隊・三八海軍艦隊

● 陸軍部三〇一三〇・三〇一五〇〇・三〇一三〇



● 陸軍部三〇一三〇・三〇一五〇〇

● 二八海軍艦隊

「ワルド」河口上陸用舟艇準備大發七、欲視ニ依リ大發一三、
付録詳略二五、四日二〇〇〇頃到着ノ後定

三陸軍機動舟艇隊一昨夕又ハ本島島後送ハ大發六發三日早朝「ヨリ」
ウニ「ヨリ」ノ後定

海軍部ノ出張（ヒ）夕迄ニ「ヨリ」ノ後ハ連絡船ヲ不可能ナリ
第一八海軍艦隊三〇一三〇「ヨリ」本島「ヨリ」島敷上陸ノ件ハ誤報ト

海 軍 部 三 〇 一 三 〇 三 〇 一 五 〇 〇 三 〇 一 三 〇

402

局長

課長

局員

三男

福地

原

赤坂

福田

赤坂

電信課

六二

開始 〇五〇〇五

終了 〇七〇〇〇

電話 〇〇一〇五五九

水俣 路

第一機動隊隊下

聯合司令部・重砲隊司令部

陸軍部

機動隊 〇二一三五七番電

二六ノ六二

第三南進機動隊隊長

一五〇〇〇番電第三一一一九二六番電返

一、機動隊機件並ハ六月末日完成、且進トシ銃隊努力中ナルモ防備及通

信兵隊ノ大部未達

二、一五〇〇〇番電並〇八一四四三番電ニ依ル銃隊機件並ハ器材ノ準備完了

「夕タイ夕タイ」砲撃隊機件並了後着手ノ機件

第一四八一・一四七九 區三A(一四九三〇四)廿二通

海軍

403

三「マラス」泊地附近海面ノ航路淨徑ハ移動流失セルモノ多ク艦位測定ハ困難ニ依ルヲ要ス

四泊地附近水深ハ現用海圖ト大差ナク水中障氣候知接電機用南口敷設中別領午鐘燈シ左ノ通懸更敷設ス

五普通候雷（E G B O B 島 P A B B E . A Z U O A B 島間）六月十
五 頃 噴 霧 ノ 子 定 可 及 且 施 設 ナ シ

六「ラモン」海施設左ノ通

（昭和十七年六月二十九日南西方面艦隊警務水雷告示一號参照）
但シ敷設後放燈ノ燈ニシテ現狀確メアラズ附近屢々飛散シアリ

(イ) P O B I L L O 島 P A B A B O A B A B 岬（九七）ノ一二三七度
二・五等ヨリ一七五度方向一七等ニ敷設鐘

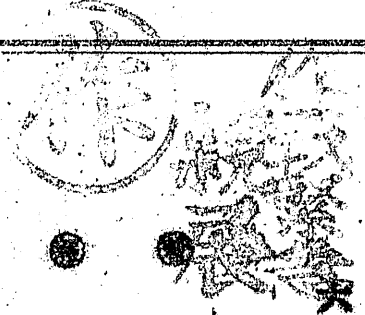
(ロ) B A L E B E X 島（二四）ノ三三〇度一三、五等ヨリ三四〇度
方向九等ニ敷設鐘

海軍省及防務局

海軍

第十課

404



三
 受
 了
 〇〇二
 八七〇
 〇三一
 〇〇二
 〇〇〇
 〇〇〇
 〇〇〇
 〇〇五
 四三八

本

聯合艦隊司令部 第三艦隊司令部 第二十八艦隊司令部 第三十一艦隊司令部 第一機動艦隊司令部
 第五基地航空隊司令部 軍司令部 南西方面艦隊司令部 第三機動通信隊
 東京通信隊 南西方面部隊司令部 第三艦隊司令部 第十一潜水隊
 二十六機隊 海軍 敵島 九五四空 十一潜水隊

機密第〇二二四〇五番電 三分ノ二二三

海軍部 海軍部 海軍部 海軍部
 海軍部 海軍部 海軍部 海軍部
 海軍部 海軍部 海軍部 海軍部
 海軍部 海軍部 海軍部 海軍部

(1) 補送隊 本隊 (青葉 鬼怒 第四警戒隊 (浦波敷波) 時雨) 一ノ
 七サ一 一ハヌシレムド發 A點 (北緯〇六度〇〇分東經一二六度
 〇〇分ヨリ針跡一四五度
 一ノヌヨレ一ノヲナシレB點 (北緯〇四度二四分東經一二七度〇五

通一四七三・一三八六・一四四一 呂三A (一九五五〇四) 廿一通 海軍

405

第十信

分ノ針路一〇五度 「ハシア」C點（北緯〇三度五〇分東經一二
 九度一〇分）針路一六〇度 「ニテア」フサイ」D點（北緯〇
 一度一〇分東經一三〇度〇八分）針路一一〇度 「エラサ」E點
 （南緯〇〇度三〇分東經一三四度三〇分） 「ハホテ」上陸點着
 (四)警戒隊（第五戰隊第二七驅逐隊（春雨 五月雨 白霧））「ノセ
 サ」 「ハトケ」H點發給送隊本隊ト同一航路上ヲ先行「ノスヨ」
 「ハトケ」F點（北緯〇三度〇〇分東經一二九度三〇分）ニ於テ
 本隊ニ合同

(五)間接護衛隊（被索 第十驅逐隊（風雲 朝雲）直衛艇ト共ニH D
 點A點ヨリ針路一〇五度 E點（北緯〇五度一四分東經一二八度
 四〇分）ヨリ針路一六〇度 F點ニ於テ本隊ニ合同「ノアロ」
 「ハニサ」以後ハ概ネE點北方海面早朝對潛封空警戒ニ關シ特ニ應
 慮ヲ得度

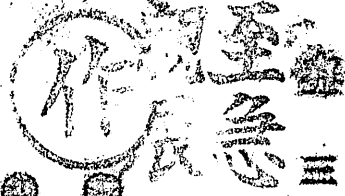
海軍(一)

三ノアロ^R以後營部隊ニ對スル對空直衝計畫通報ヲ得度
 四ノアスコレ以後E G Gノ周邊五〇〇週圍内ノ索敵ヲ特ニ監視サル
 ル機希望ス。

第十信課

海軍

407



受領〇二四六
開始一四五五
丁一六〇〇
電〇〇一三三三
作・鏡本

第四南越陸隊

聯合陸隊 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

備用

機密〇二一七三五番電 二分ノ二

陸 南西方面陸隊參謀長

南西方面陸隊電令作第三五四號

一、南西方面陸隊機密第二四一三〇八番電ニ依ル報告ハ通電アリ
陸 備用機密〇一二三一五番電ニ依ル致電後日ノ陸地西移動
陸 八班ハ本隊及ソロン等地主國ノコトトナルベキニ付同方面陸地ニ
口レ給ニ左ノ兵給ノ前線補充ニ關シ陸ノ考慮アリ

通一加〇九〇 月一八(三五〇三) 二二

第十信 限

498

(1) 海軍取給書 (2) 海軍取給書 (3) 海軍取給書 (4) 海軍取給書
 (5) 海軍取給書 (6) 海軍取給書 (7) 海軍取給書 (8) 海軍取給書
 (9) 海軍取給書 (10) 海軍取給書 (11) 海軍取給書 (12) 海軍取給書
 (13) 海軍取給書 (14) 海軍取給書 (15) 海軍取給書 (16) 海軍取給書
 (17) 海軍取給書 (18) 海軍取給書 (19) 海軍取給書 (20) 海軍取給書
 (21) 海軍取給書 (22) 海軍取給書 (23) 海軍取給書 (24) 海軍取給書
 (25) 海軍取給書 (26) 海軍取給書 (27) 海軍取給書 (28) 海軍取給書
 (29) 海軍取給書 (30) 海軍取給書 (31) 海軍取給書 (32) 海軍取給書
 (33) 海軍取給書 (34) 海軍取給書 (35) 海軍取給書 (36) 海軍取給書
 (37) 海軍取給書 (38) 海軍取給書 (39) 海軍取給書 (40) 海軍取給書
 (41) 海軍取給書 (42) 海軍取給書 (43) 海軍取給書 (44) 海軍取給書
 (45) 海軍取給書 (46) 海軍取給書 (47) 海軍取給書 (48) 海軍取給書
 (49) 海軍取給書 (50) 海軍取給書 (51) 海軍取給書 (52) 海軍取給書
 (53) 海軍取給書 (54) 海軍取給書 (55) 海軍取給書 (56) 海軍取給書
 (57) 海軍取給書 (58) 海軍取給書 (59) 海軍取給書 (60) 海軍取給書
 (61) 海軍取給書 (62) 海軍取給書 (63) 海軍取給書 (64) 海軍取給書
 (65) 海軍取給書 (66) 海軍取給書 (67) 海軍取給書 (68) 海軍取給書
 (69) 海軍取給書 (70) 海軍取給書 (71) 海軍取給書 (72) 海軍取給書
 (73) 海軍取給書 (74) 海軍取給書 (75) 海軍取給書 (76) 海軍取給書
 (77) 海軍取給書 (78) 海軍取給書 (79) 海軍取給書 (80) 海軍取給書
 (81) 海軍取給書 (82) 海軍取給書 (83) 海軍取給書 (84) 海軍取給書
 (85) 海軍取給書 (86) 海軍取給書 (87) 海軍取給書 (88) 海軍取給書
 (89) 海軍取給書 (90) 海軍取給書 (91) 海軍取給書 (92) 海軍取給書
 (93) 海軍取給書 (94) 海軍取給書 (95) 海軍取給書 (96) 海軍取給書
 (97) 海軍取給書 (98) 海軍取給書 (99) 海軍取給書 (100) 海軍取給書

第 十 倍 原 係

海

軍

479

人

六
三
三
〇九二二〇五
〇九三五
〇一四三
作

● 第二空襲部隊 ▲

南進方面艦隊口

聯合艦隊口。● 一航空艦隊口

機密第〇三一八一二番電

一、第二回〇B方面挺身偵察ノ爲一五一空襲屋一機羽三日一二〇〇電

地盤一六一五頃H H H

二、偵察實施要領ハ左ノ外前圖ニ同シ後用電波七九七〇ハト四ハ三

九〇ハダシニハ。

第十課

通一五三四 又二▲一四四九七、五陸一四放 海 軍

410

六三

陸軍省
陸軍部

陸軍省
陸軍部

陸軍省

一、陸軍省

陸軍省

陸軍省

陸軍省

陸軍省

陸軍省

陸軍省

陸軍省

陸軍省

海軍

陸軍省

予實際ヲ實地ニシテハ海軍以テ可トス
 其右政略ニ使用シ得ル者其數幾ハ現在三級ハ隊長分隊長兵曹長ヲ含ム
 アルモ右ハ第二集團ノ中核ニシテ爾後ノ轉運ニ支障ヲ來ス虞大ナリ
 戰時政利用ノ法アルモ目下暗視ニ一杯ニシテ餘力ナシ

海軍

第十箇課

412

六三 陸軍第一八四八 陸軍第一二二〇〇 電〇一四五一 本

● 陸軍司令部（南西方面陸軍第三軍團司令部）

● 二十八根ノ、一九番部隊

陸軍 陸軍第一〇三一六三七番電

陸軍 陸軍第一〇三一六三七番電

陸軍 陸軍第一〇三一六三七番電

陸軍 陸軍第一〇三一六三七番電

陸軍 二八特別偵察隊 一九番部隊

陸軍 陸軍第一〇三一六三七番電

海軍 陸軍ハ五日零時以降状況ニ依リ「オウイ」島及「ソリド」一ボス
ネツタ「同水際附近」合上ヲ除ク「ニ對シ艦砲射撃ヲ實施ス四夜ノ
夜間陸軍ニ關シ陸軍ヲマシメ

陸三〇九八 陸三A（九二〇五四）廿一通一放 海軍



第十信課

413

人事

六三 受 始 三三三〇〇 丁 二三五五 〇一六〇三 作・参本

二十八根ト・十九番備録
通示 東京通信録

機密第〇三二一〇五番電

海軍参謀長

第一電第五四三號

第一電第四〇〇號中「ソリド」ハ「モクメル」ノ誤ナリ參及機密
傳ヘラレ度。

二三三六 四一A 一九五四〇〇一廿一通 海軍

4/4

第十部課

六 四

電話一〇八五〇〇

丁一〇四五

電〇一七九九

本

● 第一六〇號

● 檢密部 四〇三二八番電

● 線 司令部

(南西方面艦隊 第三移動通信隊)

發 真參謀長

第一〇四第五四四號

聯合艦隊司令部第一一五號開聯

「突入ヲ敢行スルヲ可ナリト信ズ。」
「艦況ニ鑑ミ此ノ際爲シ得レバ直轄」

通二

五〇四

通二 (一〇〇九五五) 五通放

海軍

第十課

人

完

第十部

六

要領一〇九〇〇五

第一一〇三〇〇一七五七

作

各機師戸

二

機師一〇四〇五〇九

×
1/2

一二一部隊 第二回海身積算ハ第一回要領ニ準シ左ノ積定ヲ以テ

算定ス

第一回要領日〇六〇〇〇〇 五日積算 六日〇〇〇〇

第二五〇五 日二A一七九九〇

海軍

416

F
A

第百七
號

行

一〇五	一〇六	一〇七	一〇八	一〇九
一〇一〇	一〇一一	一〇一二	一〇一三	一〇一四

一〇一五

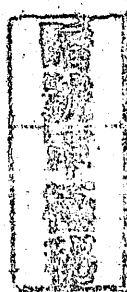
本

新

第一...

...

...



...

...

...

...

...

...

...

...

477

第七十課

三〇（租シ一タ置場ニ種々二機收容）誘導路兩側中（租）收容〇（
 飛行機出入上支障ナシ）宿泊施設取致ス因〇〇名分急遽中現在約
 二〇〇名收容餘力アリ
 三一「カウ」航空基地取調機分置約三〇機（約半数ハ誘導路上）收容
 人員三六名
 兵マザチー航空基地（ワウ）航空基地
 未調査接獲。

（東國駐 本電誤字多ク再送ノ爲通紙）

海

軍

4/8

六六

受信開始 〇八四〇

丁二二一〇

〇〇〇二二八七〇四〇七

作政・本部

符

聯合艦隊P・第六艦隊P

次官・南東方面艦隊P・第八艦隊P

機密第〇五一〇四八番電

三分ノ二二三

發 第七潜水部隊指揮官

當除機密第〇五一〇四八番電關聯

潜水艦ノ作戦線途ハ敵機ノ電探、磁氣探ノ發達並ニ飛行機小艇艇ニ依ル哨戒強化及執拗徹底セル制壓ニ依リ局地ニ於テハ晝夜ヲ問ハズ水上ノ行動著シク困難トナリテ水中亦磁氣、音響並ニ水中線機雷等ニ依リ脅威セララルニ至レリ今次伊一七六 伊一六ニ對シテハ當地ニ於テ十數日ノ整備期間並ニ慎重ナル幕前ノ研究準備及艦内出動訓練ノ機會ヲ

通三六三六三八七四三八八二 呂二A(八九九五)四放送

海

軍

部定
十部課

奥へ揚格地點ノ各司令部警備隊並ニ當潜水艦各協方シ最善ヲ選シ出望
 準備ヲ實施シタルノミナラズ兩艦共蘇赫タル戰艦ヲ有シ潜水艦長ノ技
 術乘員ノ練度術力士氣及潜水艦ノ潛航性能等何レモ申分ナキ第一位ノ
 艦ニシテ月齡亦好適ナル時機ヲ選ビ必成ヲ期シ出望セシメタル次第ナ
 ルモ遂ニ目的ヲ達スル能ハズ畢竟〇及〇方面潜水艦難送ノ至難化セ
 ル點左ト云フベク茲ニ伊號第二潜水艦伊號四二潜水艦（各且且難送）
 消息不明ノ件モアリ此ノ際從來ノ潜水艦作戦輸送ニ再檢討ヲ加へ新着
 艦下ニ根本的諸對策ヲ講ジ確實成算ヲ得タル後再開スルノ要アリト認
 ム（委細書類提出）

- ▲電探機ノ一案
- (1) 潜水艦ノ電探機ニ逆探ノ改善並ニ之ガ活用ノ設備
- (2) 逆探ハ敵艦ノ各種電波探偵機用電波ヲ簡單ニ捕得シ得ルモノニシテ
浮上直後使用可能ノモノ
- (3) 電波探偵機編隊襲撃友軍飛行機トノ訓練ノ實施

海軍

電探機

420

三敵機ノ磁氣探ニ對スル回避装置ノ裝備
 三周地ニ敵ノ秘密敷設スル磁氣香煙竝ニ水中線機雷ニ對スル潜水艦ノ
 自力排除方策
 四急速潜航性能ノ向上及潜航持續力ノ増進。

電
十
課

海

馬

局長

第十信課

五 受信二〇一八 丁〇一四五
六 開始〇一〇〇 〇〇二六六二五

聯合艦隊司令部十六號
南西方面艦隊司令部三號

機密第〇五二五二六番電 二分、十三

參謀長

通電先 歐 海

參考 次長 勢 (海參謀長) 艦 艦

詳参一電第五五六號

一、大機密ノ下第一線ノ覆面ニ依リ今ヤ「RBB」及「ROB」ニ於
テ「マツカ―サ―」反政ノ前衛兵力ヲ確保シ得タルモ敵ハ續々増
援中ニシテ四日「RAB」ニ對シテ敵艦約四〇ノ大機密中「EAB」機

通三四九八・三三二六 局一A (九五四〇五) (廿一第) 海 軍

422

第十信課

第十信課

案第〇四一一五六番電ノ参照第八三一號トキ考案スルトキ敵軍
 主力ノ「ヘルピング」海方面増勢ハ必至ニシテ各方面ニ於ケル
 決戦ノ機正ニ近キヲ思フ方面軍ハ全力ヲ擧テ要域確保ヲ期シツツ
 アリ 此ノ際敵勢ヲ一舉ニ掃同シ少クモ「マツカ」サイ「反攻」ヲ
 遂行セシムルハ此ノ敵反攻主力軍ヲ航空兵力ニ依リ洋上ニ捕捉殲
 滅スルニ在ルハ論ヲ待タズ天與ノ好機正ニ懸前ニ在リ
 三 海軍ニ於ケル海軍ノ總大ナル協力を感謝スルト共ニ海部隊ハ現
 下ノ時機ニ鑑ミ速ニ一舉ニ(二)突入ヲ敢行 俾 已ムヲ得ザルモ(ハ)ニ揚
 陸セシムルヲ至當ト信ス
 三 沼田参謀長ハ全般作戰指揮上海部隊ノ上陸ト共ニ「E. I. G.」ヲ引
 揚グシムル豫定ナリ

海軍

六五 受始二〇一〇五 譯了二一四五 電〇二四九八 作

東 通 通

機密第〇五一八三二番電

後 南東方面艦隊參謀長 着大海參一部長

通報 G.P. 八 P 參謀長

南東方面艦隊機密〇五〇八五七番電ヲ取消ス（G.P 機密〇三〇九二
九番電 G.P 電令作第一一一號本日一七〇〇了解セルニ付）。

通三五一九 呂二 A 九四五 KC 八通

海軍

第十信課

424

局長

參謀長

副參謀長

工勇

非

第

第

大 陸 軍 部 參 謀 長 官 官 署

電 報 掛 號

電 報 掛 號

本

聯合艦隊司令部・南西方面艦隊司令部

第三十一通信隊

機密第〇五二〇四五番電 二分、十三

發 南方軍總參謀長

宛 參謀長

通電先

參考 次 長 輝 南西方面艦隊

成參一電第八一六號

輝參一電第五六六號關聯

一書方又全然同就且十月八日此ノ對ノ野總ニ被テ今々奉進地事

海軍 第三十一通信隊 電報掛號

426

二展開中ナル機部隊ノ精強ヲ懸念ナク發揮セラレテ「ドブタ」ニ對
 峙中ナル敵機團ニ對シ捕獲ヲ與ヘラレシコト初望ニ違ハズ
 是ニ依リ敵機部隊ヲ誘致以テ本國ノ必取トモナリ又機務ノ順後期
 期シテ待ツベキモノアリ
 三海上機動隊團ノ(三)突入促進方算ナテ懸望ス

第十課

海軍

47

局長

課長

司員

林

赤松

田

長崎 ○○六○○○

東京 ○○六三〇

神戶 ○○三六四三

大阪 ○○三六四三

京都 ○○三六四三

福岡 ○○三六四三

● 聯合艦隊司令部

東京 ○五三〇 四返 香煙 二分ノ三

陸 威報參謀長

海 聯合艦隊參謀長

通 運先 煙

參 考 威(真)

イ 第一艦隊八一八號 勢參第八四一號轉電

ノ 本又本ヲ夕及其ノ北方海上ノ敵ニ對シテアイ夕文隊ハ且下注力ヲ

以テ攻撃準備中ナルモ其ノ敵占領シテアルリノ地帯(本又本ヲ夕

北三軒附近ニ東西ニ占ムル陸路幅約六〇〇米四四六ニシテ陸隊ヲ

三三〇一・三三二二

昌二人(五五四五)

三一編海

古原・山下(本田)

428

飛龍隊ノ攻撃ニ當リテハ少敵ヲ以テスル夜襲戰ヨリ銀十少英ノ攻襲
 ハ難クテ飛龍隊トナシテ得テ奪取セザルベシ
 手取スルツク附近敵ニ飛行機占領乃至機銃ヲ許サバ俄然吾國機路應
 ハ視テ危険ニ類スベシ
 吾國ノ攻襲ヲ察見セザルニ且敵飛行機設定ヲ妨害スルヲ道ハ一ニ敵
 艦隊ノ協力を得ニ後方陸路船團運送ニアリ
 飛龍隊ノ目的ニ應ズル如ク陸海航空部隊ノ協力を得度切望ス

電
十
部
隊

海
軍
四

729

六六
受領 〇〇四二
開始 〇〇三三五

同日 〇二四八 電 〇二六二一

作・覆

電十部
開課

第六艦隊

● 艦

長・南東方面、南西方面、南西方面各艦隊P・艦三七根
艦隊(南方軍)・海司令部(南西方面)艦隊
通信隊

機密 〇五二二一五番電

通線 艦・剛各部隊參謀長

QF 連合作第一二〇號

下管分ノ間RR及QB M方面ニ對スル潛水艦作戦總遂ヲ中止ス

三〇F長官ハOHU方面ニ對シ成ルベク速ナル時鐘ニ伊號艦百八十

五ノヲ以テ陸軍通信兵器用消耗品衛生材料對戰車通用彈藥等ヲ檢

査セシムベシ

海軍

430

入事

八

第十卷

六六

受領一三三四

丁一四一五

電〇二八八四

作 區

親展

南西方面艦隊司令部・二、四兩艦隊司令部・二四根A

大海隊一部

機密第〇六一〇四九番電

聯合艦隊參謀長

南西方面艦隊參謀長第〇五一二三五番電關聯

大海機密第二〇〇〇五番電及同機密第一五二三四六番電(内報)

二依り五月二〇日附二十四號根第五〇陸空隊第九六陸空隊第一二三

陸空隊第二一三陸空隊第四兩遊艦隊ヨリ夫々第二兩遊艦隊二編入

セラレタリ。

海軍 機密第〇六一〇四九番電

海 軍